

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

(仮称)八幡1丁目マンション新築工事

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳				
<b>■1.「地球温暖化対策」の推進</b>							
<b>1.1 建物の熱負荷抑制</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.25	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能	
	3.0	0.75	LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制			
小計	3.0	0.14					
<b>1.2 自然エネルギーの利用</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用			
小計	3.0	0.05					
<b>1.3 設備システムの高効率化</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。LED照明の採用	2.8	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化			
小計	2.8	0.26					
<b>1.4 設備システムの効率的運用</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング	
	0.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2 運用管理体制	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.1 モニタリング	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.2 運用管理体制	
小計	3.0	0.10					
<b>1.5 資源・マテリアル対策</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。節水器具の設置	4.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水		
	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	1 雨水利用システム導入の有無	
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	2 雑排水等利用システム導入の有無	
	2.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材		
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.0	0.31					
<b>1.6 ライフサイクルCO2排出率</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。ライフサイクルCO2排出量の削減	4.1	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮			
小計	4.1	0.13					
<b>1.「地球温暖化対策」の推進の評価</b>							
	3.1	0.68					
<b>■2.「ヒートアイランド対策」の推進</b>							
<b>2.1 温熱環境の向上</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出			
	2.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上		
	1.0	0.27	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善		
小計	1.2	0.94					
<b>2.2 交通負荷抑制</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制	
小計	3.0	0.06					
<b>2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価</b>							
	1.4	0.18					
<b>■3.「長寿命化対策」の推進</b>							
<b>3.1 耐用性の向上</b>							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。評価基準(平成18年国交省告示380号)等級3以上	3.0	0.50	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	1 耐震性(建物のこわれにくさ)	
	3.0	0.13	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	2 免震・制震・制振性能	
	5.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数	
	2.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔	
小計	3.1	0.44					
<b>3.2 設備の更新性</b>							
(コメント) ※設計の計画の特段に配慮した事項を記載してください。天井スペースの確保 構造部材を痛める事無く修繕、更新できる 構造部材、仕上材を痛める事無く修繕、更新できる 仕上げ材を痛める事無く修繕、更新できる	4.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	
	4.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性	
	5.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性	
	5.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性	
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性	
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保	
小計	3.8	0.56					
<b>3.「長寿命化対策」の推進の評価</b>							
	3.5	0.14					
<b>■重点項目の総平均(上記3項目)</b>							
	2.8						